

休眠預金活用事業



みんなの水辺で 楽しく体験!

「障害児等の体験格差解消事業」活動評価および成果報告書

CONTENTS

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| P2 ご挨拶 | P12 海の達人 |
| P3 事業概要 | P14 有限会社 SHIPMAN |
| P4 休眠預金とは | P16 公益財団法人 身体教育医学研究所 |
| P5 事業総評 | P18 オーシャンファミリー |
| P6 あそびとまなび研究所 | P20 Ocean's Love |
| P8 コバルトブルー下関ライフセービングクラブ | P22 龍ヶ崎市 B&G 海洋クラブ |
| P10 株式会社 FEEL | P24 宮城県障がい者カヌー協会 |
| | P26 成果報告 |



公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団
(B&G 財団)

ご挨拶



公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団
(B&G 財団)

理事長 菅原 悟志

誰もが水辺の自然体験に親しみ、交流や成長ができる社会へ

社会経済や IT 技術の急速な発展・変化に伴い、我が国の子供たちの成長環境において、人間の生物としての拠り所である海や水辺、自然に触れる機会が激減しています。

大切な体験機会や、体験に伴う交流、非認知能力を向上する機会が失われていった先に生じるであろう子供たちの変化、その先に続く社会・文化の変容に対し、多くの大人たちが不安を抱えていることと思われます。

そうした状況を踏まえ、2015 年、B&G 財団は変革と成長に向けて「青少年の健全育成推進計画」を開始し、新たな 4 つのビジョンを掲げました。

「生きる力を育む」

「体験格差を解消する」

「地域のつながりを活性化する」

「海に親しみ、海を知る」

B&G 財団は、これらの言葉に子供たちのより良い未来づくりへの想いを込め、事業強化と社会貢献の実践を推進しております。

休眠預金活用事業に採択いただき、この度 4 年間の事業期間満了を迎える「障害児等の体験格差解消事業」では、当財団と志を一つにする全国 10 の実行団体と共に、障害や経済的な困窮を抱える子供たちへ、水辺等での自然体験を通じて様々な体験、交流を提供して参りました。

本稿では、団体ごとに工夫を凝らした活動や連携協力の手法、定量調査による活動の効果をご報告し、全国で活動に勤しんでおられる体験活動、福祉関係者、また教育関係者、行政、保護者の皆様と、改めて子供たちに自然体験を提供する意義と重要性を共有したいと存じます。

子供たちの心身の健全な成長に必要な自然体験を、家庭の経済状況や障害の有無にこだわらず、希望する誰もが行う事ができる社会に向けて、B&G 財団は理解と協力の輪を広げてまいります。

事業概要

■ 事業の目的

身体障害等や家庭の困窮など困難な環境にいるというだけで、海洋レクリエーションや里山での活動など子供の自己成長に欠かせない自然体験に参加することができない子供たちがいる。本事業では、そのような子供たちを対象に海洋レクリエーション等の自然体験を提供する 10 の実行団体と協働して、3 年間にわたり水辺等での自然体験活動を行った。参加した子供たちに活動前、シーズン終了時にアンケートを取り、自己肯定感、生活充実感等について調査・分析を行うことで子供たちの心の変容をみることで、障害のあるなしに拘わらず健常児等と一緒に活動することでインクルーシブな社会のモデルを構築することを目的に本事業を行った。

■ 申請から契約まで

休眠預金事業は、休眠預金等活用法に基づき 2019 年度から休眠預金等活用制度がはじまり、内閣総理大臣により指定された一般財団法人日本民間公益活動連携機構（通称：JANPIA）が指定活用団体となり本制度が運営されている。

B&G 財団は、この制度が開始された初年度の 2019 年 7 月に JANPIA に「障害児等の体験格差解消事業」を申請し、同年 10 月に全国 22 団体のうちの一つとして資金分配団体に採択され、同年 11 月 20 日に JANPIA と 2023 年 3 月までの総事業費 79,965,000 円（うち自己負担額 10,250,000 円）の資金提供契約を締結した。また、2020 年 7 月に新型コロナ支援として、別途 14,868,000 円（自己負担は無）の追加支援を JANPIA に申請し、同年 8 月に採択され、追加の資金提供契約を締結した。

■ 実行団体の募集

本制度は、指定活用団体の下に「資金分配団体」があり、その資金分配団体が実際の事業を行う「実行団体」を募集・選定し、事業資金の交付と伴走支援を 3 年間にわたり行うこととなっている。

B&G 財団では、2020 年 1 月に実行団体の募集を開始し、同年 3 月の当財団理事会において全国 20 団体の応募申請の中から 10 団体を選定した。また、各団体と当財団との資金提供契約は、同年 5 月から 6 月にかけて締結した。

■ 事業期間

事業期間は、JANPIA との最初の資金提供契約を締結した 2019 年 11 月から 2023 年 3 月までの約 3 年半となる。

■ 事業内容

実行団体が実施する体験活動は、スタンドアップ・パドルボード（SUP）やカヌー、ヨット、サーフィン、海遊び等を中心とした海洋レクリエーションと里山体験なども含めた自然体験活動を中心に 3 年間にわたり実施した。

■ まとめ

参加した子供たちや保護者等を対象に行ったアンケートの分析結果を東北大学加齢医学研究所と一緒に分析・考察を行った。子供たちの心の変容の結論としては、日常的な不安および緊張が軽減され、生活充実感が向上する傾向が見られるなど、本事業の成果として目的の一つは達した。また、障害のある子供たちと健常児と一緒に体験活動に参加することで「お互いに認め合う」ようになっているなど、実行団体のスタッフから伺うことができた。本事業の目的のもう一つであるインクルーシブ社会に向けて一歩進むことができ、こちらについてもモデルとしての歩みができたと自負している。

なお、アンケートの詳細については、ご指導いただいた東北大学 瀧靖之教授（医学博士）に本書に報告としてまとめていただいたのでご一読いただきたい。

休眠預金とは

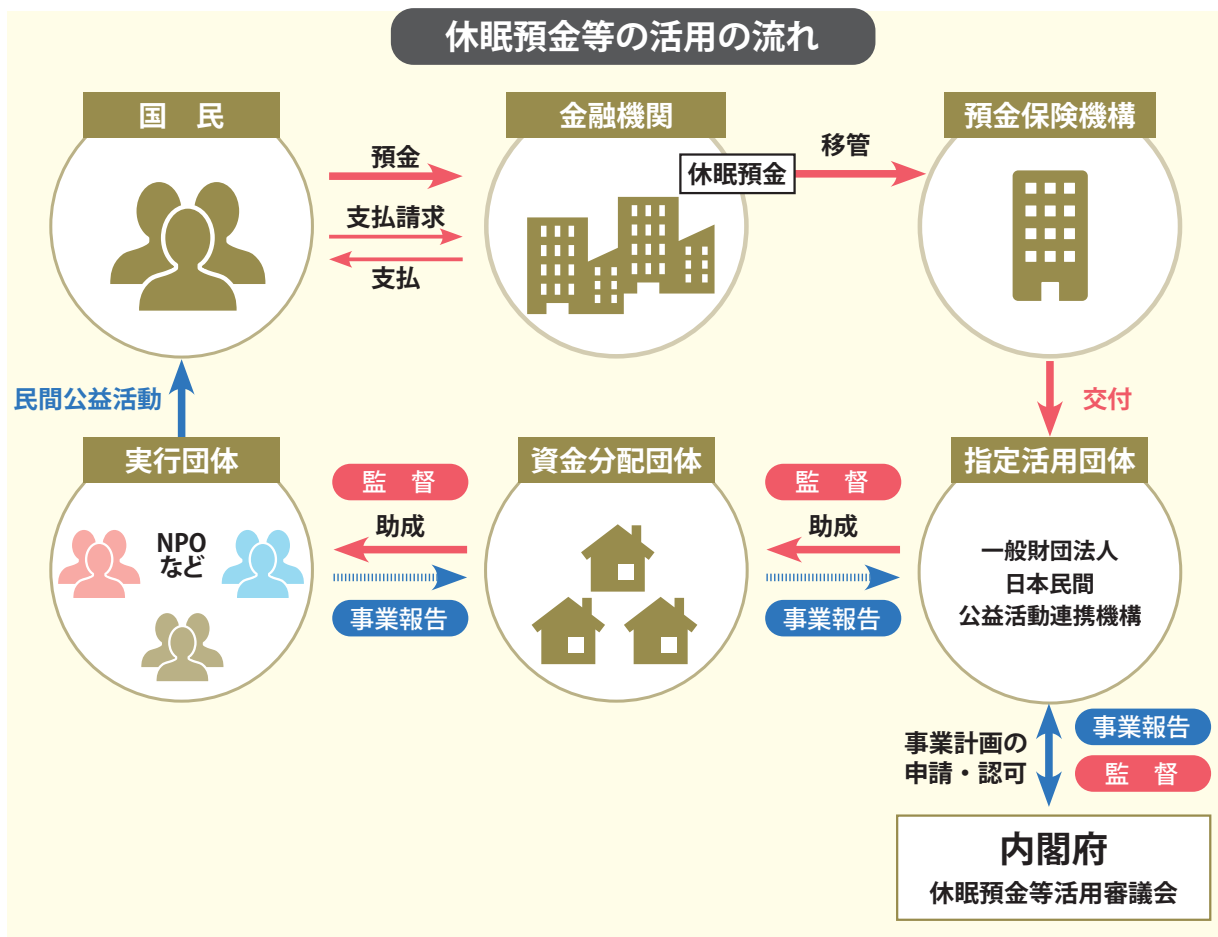
「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」（休眠預金等活用法）に基づき、2009年1月1日以降の取引から10年以上、その後の取引のない預金等（休眠預金等）を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度が2019年度から始まった。

休眠預金活用の目的

1. 国、地方公共団体が対応困難な社会の諸課題の解決を図ること
2. 民間公益活動の担い手の育成と民間公益活動に係る資金調達を整備すること

期待される効果

1. 社会の諸課題の解決のための自律的かつ持続的な仕組みが構築されること
2. 民間公益活動を行う団体の資金的自立性と事業の持続可能性が確保されること



B&G 財団は、資金分配団体として包括的な支援プログラムを企画・設計すると共に、実行団体に対する資金の助成や経営・人材支援等の非資金的支援を伴走型で実施することで、民間公益活動の自立した担い手を育成する役割を担っている。

実行団体は、事業の実施により社会の諸課題を解決するだけでなく、課題を可視化し現場のニーズ等を資金分配団体等にフィードバックすることで、本制度の改善に寄与する役割を担っている。

事業総評



拓殖大学 商学部 教授 太田 実

立教大学大学院観光学研究科博士課程前期課程修了（修士）。株式会社矢野経済研究所上級研究員、松蔭大学准教授を経て、現職は拓殖大学商学部教授。そのほか、大正大学地域創生学部特命教授、株式会社矢野経済研究所非常勤研究員を兼務している。「観光」に関わる基礎理論の構築に注力するとともに、経営学（マーケティング論）からのアプローチにより、観光産業の活性化に向けた研究を進めている。

3年間で振り返りますと、最後まで感染症拡大に翻弄されることとなり、ブルーシー・アンド・グリーンランド財団（以下 B&G 財団）、および実行団体の皆様におかれましては、大変ご苦労されたことと拝察いたします。コロナ禍により、当初計画していた活動がままならない状況ではありましたが、当事業が一定以上の成果を残して着地できたことは、実行団体の皆様方の努力や工夫、B&G 財団の効果的なサポートがあつてのことと考えています。

持続的な活動を維持することのできる仕組みをつくっていただくことが当事業の大きな目的の1つとなっていますが、各実行団体からの成果報告を概観しますと、そのためのリソースである「ヒト、モノ、カネ」について拡充できたことが確認できます。また、複数回行われた情報交換の場も、重要な役割を果たしました。他団体の課題、問題点、苦労と、これに対してどのような施策を講じて対応しているのか等を共有することで、自らの団体への応用可能性を考え、今後の活動に活かしていただきたいと思えます。

当事業ではアンケートを皆様をお願いしておりますが、これに加えて、子供たち、保護者の方、あるいはボランティア、ならびにスタッフの方々の声を直接お聞きしました。お忙しい中、また、疲れている中でご協力をいただきましたが、事業評価をするに当たりましては、こうした現場の声がとても役立ちました。この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。他方、B&G 財団のスタッフの方々においては、各実行団体に赴き、活動を観察し、現場の声を聞くということを相対にしっかりと実行されたことも、事業目標の完遂に大きく寄与したものと考えます。

私もいくつかの団体を視察しましたが、そこではスタッフの皆さんの「情熱」に圧倒されました。活動を継続するためのリソースの中でも、とりわけ「ヒト」についての手当てを課題とする団体が多くありましたが、こうした状況は相応の「情熱」を持っていなければ務まらないことの裏返しとも言えましょう。運営は大変なことばかりだと思います。やや情緒的な物言いとなりますが、それを「苦」とせず、「楽（しみ）」や「喜（び）」として子供たちと接しているからこそ、子供たちも心から楽しめるのではないのでしょうか。

事業自体は終了となりますが、この3年間で得られたノウハウや資材を今後の運営に有効に活用していただきたいと考えます。また、B&G 財団、及び各実行団体間の「縁」も大事にしていただきたいと思えます。

末筆ではございますが、皆様の有意義な活動が一層発展します事を祈念いたしております。

特定非営利活動法人 あそびとまなび研究所

もじうみ里海探検隊

～地域のすべての子どもたちに、海や里山での豊かな体験を～

〒 808-0135

福岡県北九州市若松区

ひびきの1-7

北九州学術研究都市

北九州市立大学留学生会館

1F 北 ひびきの base

TEL 070-5495-6543

Email

contact@asobitomanabi.org

団体概要

子どもの「あそび」と「学び」に係わる実践と調査・研究を通して、子育て環境の改善を図り、子どもと親の健やかな育ちとまちづくりを応援しています。日々の子どもの遊びと豊かな体験機会を補償し、子どもたちが自ら学び育つ環境を生み出し、子どもたちを取り巻く、多くの人々の参画を得て、全ての子どもたちが身近な豊かな自然の中で、健やかに愛着を持って、ずっと生活できる“まち”を目指します。

活動場所

- ①もじ少年自然の家
- ②玄海青年の家
- ③水環境館
- ④エコライフステージ
小倉勝山公園
- ⑤ひとみらいウィーク
黒崎コムシティ
- ⑥ゆめみらいワーク
小倉 AIM 西日本総合展示場



休眠預金事業の協働団体

北九州市立 もじ少年自然の家①

北九州市立 玄海青年の家②

北九州市立 水環境館③

(有)カヌースクール九州

市民活動サポートセンター⑤

特定非営利活動法人 KID's work

参加団体

放課後等デイサービス わらいろ

放課後等デイサービス

あしたのつばさ

学生
ボランティアも
多数参加

休眠預金事業の主な活動内容

水辺の安全講習会(ボランティアスタッフ編、参加者KYT)、ライフジャケット安全講習、カヌー体験(貯水池、プール、海)、サップ体験(紫川、海)、川(汽水)活動、里海体験、干潟

あそび、はぜ釣り、貝掘り、海塩づくり
里山活動、たけのこ探し、竹炭づくり、火おこし、焼き芋、もちつき、縄文土器づくり、植物観察(みちくさ)、野外調理、キャンプ体験など



❖ 休眠預金による主な対象者の参加人数

	子ども				大人	
	総数	要支援児童	ひとり親家庭	子ども食堂	総数	活動支援者
2020年度	145	45	27	60	134	83
2021年度	482	96	23	—	410	128
2022年度	387	60	34	229	459	217
合計	1014	201	84	289	1003	428

※ 2022年度は12月までの集計



❖ 成果

コロナ禍にあって、子どもたちの自然体験活動は大半が中止され、要支援児童のみならず、全ての子どもたちの体験機会不足は大きな課題となっている。3年間の長期にわたる活動計画を持つことができた本事業では、途切れることなく、丁寧に説明、設計された活動が安定的に継続実施され、活動機会を生み出すことができた。当初の参加者親子の不安や不安定さが、活動を重ね人やフィールドとの関係

が深まることで、確実に解消され、活動自体の安全性や安定性が増し、多くの参加者の受け入れが可能となった。子どもたちの「もっとやりたい！」という気持ちが全ての現場で溢れていた。

活動を支援して下さったみなさんの理解も深まり、活動自体の持続可能性も増している。活動の存在の周知も図られ、今後はより多くの参加者の受け入れを目指していく。

❖ 特記事項

B&G財団の支援により、ポッチャやサップなど、これまでなかった大人気活動コンテンツがもたらされた。活動スタッフへの安全指導や、子どもたちへの水辺の安全指導など、実践現場において様々な指導や支援をいただいたことに大変感謝している。

「たのしい！」を知った子どもたちの水辺活動や野外活動に対する積極性は増しており、子どもたちの「こんどはこれがやりたい」を一つ一つ実現していきたい。

放課後等デイサービスと連携する活動体験機会の提供は、双方に学びが大きく、課題も顕在化した。総じて子どもたちの適応力は高く、活動に入るまでの不安は大きい、始

まってみると、興味や関心を持って活動に集中している様子が観察された。「次にやりたいこと」も明確で、次回への期待とたのしみを持つことができていた。

海辺や汽水域など、自然の中での活動は、活動日時、天候、季節など要素が複雑で、有意義な活動設計のための現場ごとの経験値を上げていくこと、安全対策のスキルを上げていくことなどが必要。本事業でご協力いただいた方々と、北九州市の豊かな自然を活かした通年の活動設計と適切な難易度の設定を工夫し、四季を通じて繰り返しフィールドに出ることで、多様な個性と異年齢の子ども達が活動とフィールド保全の担い手として育っていくよう見守りたい。

行政関係者の声

参加児童の多くは学校や放課後等デイサービスでは行動を制限され、注意や指導の多い日常を過ごしていることが見てとれた。活動では、まず自分の安全を自分で守る、仲間と共に活動することなどを身をもって学ぶことができおり、その適応ぶりは、大人より子どもたちの方がずっと顕著であった。目の前の具体のための、行動を明示することで、子どもたちの集中力は発揮され、活動への興味が仲間への関心や配慮、適切な行動制御に繋がっている。

外部評価

事業実施に関わる資料や参与観察、実施者のヒアリングをもとに外部評価を行った。コロナ禍で自粛や感染症対策が求められる中で、障害児やひとり親家庭等の子どもを対象に、水辺の自然体験活動を実施してきたことを評価する。インクルーシブな社会の実現が求められる中で、子どもの自然体験格差はコロナ禍でより問題が表面化した。その解消に向けての取り組み、つまり障害、貧困、子どもの家庭や生育環境に配慮しつつ、さまざまな子どもたちの子ども期を保証すること、またそこにとどまらず、事業者と子ども、保護者の関係づくりを丁寧にきめ細やかに進めようとしてきたことも評価できる。子ども期の3年間の事業を通して、実施事業が深まると同時に広がり、関係機関とのネットワークがなされ、実施団体においてもスタッフの育成と中高生・若者リーダーの養成がなされている。スタッフ育成→若者リーダー養

成→きめ細やかな事業（様々な子どもの参加受け入れ・自然体験補償）というステップがあり、事業が継続されることでサポートと参加者のコア層ができ、徐々に参加者のすそ野が広がっている。また対象とする子どもの特性の事情から体験だけでなく保護者の理解、安心そして参加を図っていくことも必要になる。こうしたモデルが身近に各地で推進されることで体験格差解消と自然体験の促進がなされることを期待できる。あわせて当該団体による3年間の事業目的を理解し、事業の充実や課題解決に向けて、相談に乗りサポートしてきた財団の中間支援についても高く評価したい。ネットワークを広げ、関係機関や社会的資源の活用が図られてきた。こうしたNPOや組織間の協働についても大きな意義があったと考えられる。



北九州市立大学教授 恒吉 紀寿

NPO 法人 コバルトブルー下関 ライフセービングクラブ

プロジェクト豊夢

〒 750-1163
山口県下関市清末千房
2丁目1-18

連絡先
TEL 083-227-2393

団体概要

2000年、山口県下関市豊北町に、現在「口コミで選ぶ日本の橋ランキング」1位になっている角島大橋が開通し、自然が美しい状態で残されている角島に多くの観光客が訪れるようになった。しかしその一方で、海水浴客の水難事故や海岸漂着ゴミ、さらには少子高齢過疎化や産業継承者の減少など多くの課題が生じている現状がある。本団体は以下の活動を通してそれらの課題について解決することを目標に活動を行っている。

● 海水浴場での水難事故の未然防止活動および救助・救命に関する活動

※当団体が依頼され管理する各海水浴場において、軽溺、重溺事故の救助活動実績により過去に続いた死亡事故の発生件数ゼロを実現。地元の方に高く評価をいただいている。

● 角島沿岸部における海洋漂着ゴミの回収・調査の協力および環境保護活動

● 高齢化にともなう角島周辺地域の地域活性化プロジェクトの推進

● 地域住民と外国人をはじめ地域外部から訪れる方との合同ビーチクリーンイベント・交流会の開催

これらの活動を通して多くの人々に対し、海の環境に関心を持ってもらうとともに角島周辺海域の現状について知ってもらうことができた。さらに今後は本活動とこれから行う下記の活動を通し角島周辺地域の多くの問題解決の一助になる活動を行っていく。

● 多くの若者を対象としたイベントを開催し、高齢化問題の解決にアプローチする

● プロボノ（専門性やスキルを活用）とボランティア（労働力の活用）のバランスを組み合わせ合わせたイベントや事業の実施

活動場所

山口県下関市
豊浦町～豊北町

角島大橋周辺の海域が中心



休眠預金事業

既存の対象団体

- ・ NPO法人 皆繋が集めたシングルマザー及びシングルファザーとその子供たち

既存の協力団体

- ・ NPO法人 皆繋
- ・ ホテル西長門リゾート

この3年間で増えた協力団体

- ・ FCバレイン下関
- ・ ブリジストンサーフィン部
- ・ ウミモスキ
(水辺の愛好家たちによる任意団体)

主なプログラム

- 学び** ・ 海岸清掃
- ・ ライフジャケット講習（水辺の自己防衛学習）
- ・ 火起こし体験
- ・ 調理実習
- ・ アロマ体験（お母さんへ香水をプレゼントしよう！）
- ・ テント、タープ張り体験

遊び 【マリニアクティビティ】

- ・ サーフィン
- ・ SUP
- ・ クリアカヤック
- ・ 水上サイクリング
- ・ バナナボート
- ・ 釣り、サザエ獲り

【BBQ他】

- ・ BBQ
- ・ たき火

❖ 休眠預金による主な対象者の参加人数

	ひとり親家庭	
	子供	保護者
2020年度	17人	8人
2021年度	12人	5人
2022年度	10人	4人
合計	39人	17人



❖ 成果

子供たちの自制心や想像力が向上し、イベント実施中にチームの相手を思いやることや役割の中で先を予想する力などがついてきたことを肌で感じる事ができた。その中で、分析結果では孤立感の解消や対人関係（親への信頼性を含む）や社会性・自立心が向上することも観てとることができたのは大きなやりがいになった。また、最も大きな成果として孤立感の解消に顕著に結びつくことができた点が挙げられるが、活動の中でお互いの存在の必要性を認め合い仲良く過ごすことができた時間を通して自己肯定感が著しく伸びたことが伺える。その他、活動の中で年々親子らしい雰囲気を感じることが増え、子供たちは褒められることで自信を得ることに繋がり、母親の両手を姉妹で取り合うような仲睦まじい光景を目にすることが多くなり、子供と親との関係性がより親密になっていったことは本プログラムの大きな成果だと認識している。

❖ 特記事項

- ・年々参加する子供たちの数が減少していったが、その理由として本プロジェクトを毎年迎えるごとに、子供たち自身の動機づけ・意欲が向上し学校のクラブ活動にも積極的に参加するようになった。その結果として、クラブの中でも中心的な存在となっていき、実施日と競技の大会が重複等したために本イベントに参加することができなくなったと聞いた。この事業に参加したことが、本人の成長に役立っていると思えうれしい誤算となった。
- ・参加されている保護者間のやり取りが深くなっていく中で、BBQ後にたき火を囲んでいた際に保護者自身の幼少期に生活保護を受けていたことからいじめの対象だったという経験があるので生活保護を受けないでいたが、子供のために勇気をもって生活保護を受ける決断をしたという話を聞いた。（福祉抵抗性の低減）

保護者・関係者の声

参加されているある保護者は、コロナ禍で補助金申請しようと試みたが子供の通う学校が休校にならなかったため補助対象にならず残念な思いが募っていたが、本プロジェクト実施日まで親子共々頑張ろうと決意し当日を迎えたと聞いた。それを聞いた私たち関係者は本プロジェクトをやって本当に良かったとやりがいを感じる事ができた。

自己評価と総評まとめ

私たちはこれまで様々な境遇にある子供たちにマリナクティビティを楽しむ機会を提供してきた。かつていじめを苦に自殺未遂を経験した子供たちが含まれており、彼らが少しずつ元気を取り戻し毎年のように大人になっていく様子を励みにして頑張ってきた。そんな私たちであっても毎回、イベント参加直後の子供たちの表情と戻っていく際の様子の变化の大きさに驚かされる。もちろん「子供たちが元気になってくれて良かった」と心から思うことが私たちのやりがいに繋がっており、一人でも多くの子供たちを救うためにはステークホルダーたちのコンセンサスを得ることがとても重要になることも理解している。製作した動画を多くの人たちに見てもらうことで、本プログラムにより子供たちの変化の様子を数値・可視化することができたことは、その場に居合わせることのできない多くのステークホルダーたちを強い味方に変えるのに十分な説得材料になっている。



コバルトブルー下関ライフセービングクラブ 理事 新名 文博

外部評価

本プロジェクトは、アクティブイベントを通して、子供の非認知能力の向上や、親子の関係強化といった日常生活の基盤のより良いほうへ向けていく取り組みである。文部科学省が示す通り、自然体験等は、子供の非認知能力を育成することは知られているが、このような体験機会には、様々な面で格差が生じている。

このような、経験を積む機会が十分にない親子において、効果をより伸ばすためのプログラム開発に取り組み、3年間実施してきた。結果的には、参加児童と親の自己肯定感・自己効力感といった領域や生き抜くための力と言われる様々なスキルが伸び、自信につながる変化を測定できた。弊会の保有する通常イベントとの効果比較においても、本プログラムを受けた児童の効果は高く、プログラムの有効性を実感した。



認定NPO法人皆草代表理事 林 陽一郎

株式会社 F E E L

全ての子供たちに体験の機会を！

〒 751-0823
山口県下関市貴船町
2丁目 14-28

連絡先
TEL 083-250-5180

団体概要

山口県を中心に、野外教育やアウトドアスポーツを企画、提供する団体です。かねてより不登校や障がい児等の事業経験があり、その機会を拡大する活動をしています。

活動場所

- ・山口県油谷青少年自然の家
- ・下関市深坂自然の森
- ・アクトビレッジおの
- ・アクティブテラス
きららいず



休眠預金事業により出来たこと

休眠預金事業助成前と比較し、県内の放課後等デイサービス、特別支援学校等と連携ができた。実際に活動することによりその活動が広く知られ、関心を持つ団体や保護者が増加し、コロナ禍での活動ということもあり人数調整が必要になるほど参加者が増加する結果となった。

一部の団体とは部分的に活動をすることがあったが、本事業の対象者を中心とする事業は初めてであり、結果的に横のつながりで参加団体が増え、放課後等デイサービスに通う子供たちに通年での体験格差解消事業を提供することができた。

保護者からは、子供たちがこういった活動ができる機会が持てるとは想像しなかったという声が多く、発達障がい児を持つ保護者が、海浜活動や自然体験活動を通じてその意義を強く感じる機会を多く持つことができた。

休眠預金事業の 主なプログラム

- ・海や湖を活用したカヌー、SUP、メガSUP、海水浴など
- ・キャンプ場等を使用したたき火や焼き芋、デイキャンプなど
- ・自然体験活動施設でのマウンテンバイク、シャワークライミングなど



❖ 休眠預金による主な対象者の参加人数

	放課後等デイサービス		ひとり親家庭	
	回数	人数	子供	保護者
2020年度	15回	172人	18人	22人
2021年度	12回	151人	コロナの影響で中止	
2022年度	8回	137人		
合計	35回	460人	18人	22人



❖ 成果

子供たち、関係団体からのニーズが高く、当初の想定よりも高頻度で開催ができた。最初は見学で来ていた保護者も、徐々に参加をするようになり、より事業の意義や理解が深まった。年間を通じて活動することで、子供たちは1年間に複数回参加することができ、また多様な活動をすることで、本人の向き不向き、特性、普段見られない一面などを把握することで、個々人の成長のみならず、参加団体の日常的な活動にも活かすことができた。水辺の活動においては、最初は水に近づくことを恐れていた子供たちが水に入れるようになる、カヌーやSUPを恐れていた子供たちが一人で乗れるようになるなど目に見えた成長が多くみられ、能動的に参加する子供たちが年々増加した。事業としても、年間を通して子供たちが水辺の活動を含む体験活動ができる状態となり、関係団体からも来年度以降の期待をいただいている。

❖ 特記事項

主に4団体との年間を通じた活動を行ってきたが、本事業を通じて普段はできない団体間の交流ができた。また、それぞれの団体職員の交流、本事業をするために相互のスキルアップをする機会を作るなど、事業を推進するためのサポート側のスキルアップの機会を設けることができた。子供たちは、そのほとんどが水辺のアクティビティが初体験であり、また海に初めて入るという児童もあり、多くの活動機会を提供できた。また自転車の練習をするのが初めてで、マウンテンバイクの講習後に実際にマウンテンバイクを購入したという子供たちもいた。



➤ 自己評価と総評まとめ

3年間の活動を通じて、本事業の対象者にとって、自然体験活動が重要であることを再認識でき、更に関連する団体や保護者から大きな期待やニーズがあることがわかった。対象者は私たちが想像していた以上に体験の機会がなく、また体験を提供できる事業者も周辺地域は少ないこともあり、体験格差が発生している状況を、事業を通じて理解できた。対象者には大きな可能性があり、活動を通じて多くの成長や自己実現など、個々人の人間力を高めていくうえで自然体験活動は有効であると感じている。その機会を拡大していくためにも、指導ができる人材や団体が必要であり、今後はその育成も考えていきたい。

3年間の事業を進めるにあたり、B&G財団からいただいた情報、助言、運営の手法など、多くの場面で参考になり、事業推進がより円滑となった。他団体の活動状況や対象者の選択、新型コロナウイルス感染防止対策など、B&G財団に実施していただいた全体ミーティングでは多くの参考情報を得ることができ、自身の活動の改善等にも繋がった。定期的に事業を視察していただき、適切なコメントをいただきながらコミュニケーションがとれたことで、安心して活動をすることができた。



株式会社 FEEL
代表取締役
井上 桂

➤ 外部評価

障害があることで体験の機会が狭められることが日常的に起きる子供たち、それ以上に家族にとってこの機会は安心して安全に体験をする良い機会となっています。そしてその機会が専門的に学んだ方々によって得られるということがとても貴重です。理解に時間がかかる子供たち、学び方に特徴がある子供たちにとって本物を見て学び体験できることに益したことはないからです。さらに兄弟姉妹にもその機会があることは、今後、自分の環境に気づき、悩むこともあるだろう彼らにとって何よりも得難い時間で、この時間が今後を支える一部になると考えます。理解してその機会を均等にいただけること、何より身近にこんな大人がいるのだと知る機会によって、彼らの生活の幅を広げることを嬉しくこの活動に感謝いたします。



社会福祉法人
内日福祉会
びれっじ
相談支援専門員
沖村 文子

特定非営利活動法人 海の達人

～海に親しみ、海に学び、守り継ごう～

〒 510-0303
三重県津市河芸町東千里
854-3
マリーナ河芸 気付
TEL 059-245-5001
FAX 059-245-5002

団体概要

海の達人は小中高大生、一般住民に対して、障がいの有無に関係なく海に関する事業を行い、もってすべての人々が自然に親しみ健やかに過ごせる地域社会作りとスポーツの振興に寄与することを目的としている。

活動場所

マリーナ河芸港内
及び近郊の海や河川



休眠預金事業の対象団体

既存の対象団体

セイラビリティ河芸
三重県、岐阜県内の特別支援学校

この3年間で増えた対象団体

エスペランス四日市
高田幼稚園

休眠預金事業の協力団体

既存の対象団体

(株) ダイイチ
(株) 第一楽器
(公社) 三重県障害者団体連合会
(一財) 岐阜県身体障害者福祉協会
セイラビリティ三重
伊勢志摩バリアフリーツアーセンター
ヤマハ発動機 (株)
第四管区海上保安本部 等

この3年間で増えた対象団体

三重大学
三重県身体障害者総合福祉センター



休眠預金の主な事業

セイラビリティ活動
セイラビリティ活動内での体験会
海のバリアフリーまつり
特別支援学校体験会
(新型コロナウイルスにより中止)



❖ 休眠預金による主な対象者の参加人数

	セイラビリティ		ひとり親家庭		海のバリアフリーまつり	
	子供	大人	子供	保護者	子供	大人
2020年度	23人	129人	0人	0人	中止	
2021年度	33人	183人	3人	5人	中止	
2022年度	10人	91人	0人	0人	298人	514人
合計	66人	403人	3人	5人	298人	514人

❖ 成果

セイラビリティ活動では、メンバーからの紹介で幼稚園のスタッフや園長先生が体験会にお越しいただいた。コロナ感染拡大により体験会の実施には至らなかったが、ぜひ子供たちに体験させたいという声をいただいている。3年ぶりに開催した2022年度のバリアフリーまつりでは70%が新規来場者になり、障がい者も一緒にマリンスポーツを楽しめるということを知ることができたと思う。

アンケートでも、「車いすで参加できることがありがたい」や「障がい者と健常者がふれあう機会が無いので、いい取り組みだと思う」などの声を多数いただくことができた。

保護者・関係者の声

～セイラビリティ活動に参加していた児童のお母さまから～

幼稚園の頃から参加させていただいて、息子をとても可愛がっていただき、また人生の中でとても体験できないような貴重な体験をいっぱいさせていただき、ありがとうございます。

息子のハンディで精神的につらかった時期にこちらの活動に出会い、非日常的な海の上の世界、セレブな気分も味わわせていただき本当にありがとうございました。息子が食べられなかったカレーも今では信じられない過去の出来事です。今は、卓球に夢中で参加が難しくなっていました。そちらでいろんな方に可愛がっていただいたコミュニケーションの源が今に繋がっている気がします。

～特別支援学校教員より～

「ほぼ寝たきりで表情の少ない児童が、ストレッチャーや車いすでクルージングにでた際には表情が明るくなり海の上を楽しんでいるのが分かり、この活動に来てよかった」という声をいただいた。コロナでなかなか実施に至らなかったが、海辺の活動が子供の気持ちに変化をもたらしているということを知り、本事業の意義を教員の皆様に知っていただくことができた。

➤ 自己評価と総評 まとめ

コロナウイルス感染拡大により思うような活動実施はできなかったが、活動に参加された皆様からは喜びの声をいただくことができた。

障がいをお持ちの方でもマリンスポーツを楽しむことができるということ、また障がい者と健常者が一緒に楽しめる場があるということを知ることができたと思う。

海辺の活動は体感、視覚、聴覚的にもリラックス効果があり、体験者を笑顔にさせることが実証できたのではないかと考えている。



海の達人
理事長
大野木 博久

➤ 外部評価

新型コロナウイルス感染拡大の影響でイベント等の実施が大変厳しい社会情勢の中、「障害児等の体験格差解消事業」として可能な事業に取り組んだことは非常に重要な成果と考えます。限られた条件の中で、障害者と健常者が共に船やヨットで実際に海を楽しみ、海での活動を体験する活動を展開できたことは大変意義があると思います。三重大学・自然環境リテラシー学を学んだ学生が「第15回バリアフリーまつり」にも参画させていただき、指導者側で参加した学生にもバリアフリーな社会の中で自分達が活動する具体的な姿をイメージでき、非常にいい影響がありました。



三重大学
教授
坂本 竜彦

有限会社 SHIPMAN

誰もが安心、安全に楽しめる
海洋活動の普及

〒 431-1402
静岡県浜松市北区三ヶ日町
都筑 523-1
静岡県立三ヶ日青年の家
気付
TEL 053-526-7156
FAX 053-526-0665

❖ 団体概要

地域の関係機関と連携し、地元の小・中学校への水辺の安全普及活動や、三ヶ日青年の家で社会教育施設として事業を行っている。また、安全な海洋教育活動や普及啓発活動として「浮いてまで」の活動を実施し、体験学習のコンサルタント業務及び学校での指導用救助艇の企画・製造等も行っている。

❖ 活動場所

静岡県立三ヶ日青年の家
浜名湖畔に位置する三ヶ日青年の家では、浜名湖をフィールドに様々な水辺の活動を体験することができます。ダブルハルカヌーは、日本でもここでしか体験することができない活動です。



❖ 休眠預金事業の対象団体

既存の対象団体

静岡県西部の特別支援学校

この3年間で増えた対象団体

浜松市不登校児童生徒（三ヶ日中学校・三ヶ日西小学校）
おれんち教室（適応指導教室）

❖ 休眠預金事業の協力団体

既存の対象団体

浜松市立三ヶ日中学校
浜松ライフセービングクラブ
ヤマハ発動機スポーツ振興財団
豊橋海洋少年団
豊橋市教育委員会
静岡県西部の特別支援学校 etc

この3年間で増えた対象団体

ボーイスカウト静岡県連盟浜松第19団
オイスカ浜松国際高等学校
日本ブラインドセーリング協会
（公）日本セーリング連盟障がい者セーリング推進委員会
ハンザ・セイリング・ジャパン

❖ 休眠預金事業の主なプログラム

【海洋活動】 ダブルハルカヌー、ハンザヨット

ダブルハルカヌーは日本では三ヶ日青年の家でしか体験できないプログラム。二つのカヌーがつながっているもので、軽くて安定性があり、どちらの活動も小さいお子様から年配の方、障がいのある方も安心して乗船することができる。

【陸上活動】 ボッチャ

パラリンピックの種目として知られているボッチャは、海洋活動ができない時期や、雨天プログラムとして提供している。年齢や、障がいに合わせて簡単なルールでも楽しむことができる活動となっている。



❖ 休眠預金による主な対象者の参加人数

	特別支援学校・学級
2020年度	42人
2021年度	63人
2022年度	179人
合計	284人



❖ 成果

ハンザヨットについては、少しずつ知名度が上がってきたと感じる。今年度初めて利用団体へ活動を提供したが、今後はもっとたくさんの人に活動してもらいたい。

助成金でバリアフリー関連のものも購入できたので、車いすの利用者などがさらに便利になり助かったという声もあがった。初年度についてはコロナウイルスがまん延し始めた頃だったので、活動が制限され、利用者も伸び悩んでいたが、2年目、3年目になるにつれ、だんだんと活動の幅や利用者の人数も増えてきた。

❖ 特記事項

浜松視覚特別支援学校さんの体験実施前、先生方がダンボールのハンザ実物大模型を作り子供たちに乗り方、扱い方の練習を学校で実施いただいた。また、子供たちへハーバー内の仕掛けに入った生き物をバケツへ入れて実際に触ったりする体験を行った。普段触ることができない子も自分から触るなど意欲的に活動に取り組んでいた。

保護者・関係者の声

ボーイスカウト指導者より

浜松の地元は山間部、野原もあり子供たちの自然体験環境は都会に比べて恵まれている。しかし浜名湖から得る体験はほとんどなく、平成5年度から活動メニューとしてセーリングを取りいれていくこととした。特にハンザ級ヨットを通じた障がい者と健常者の一体化した活動に子供たちに参加させたい。

➤ 自己評価と総評まとめ

休眠預金を活用した体験格差解消事業にエントリー出来た事を、まずは心から御礼申し上げます。

今回のコンセプトはこの3年間にとどまる事なく、今後も地域活動として大きく発展して参りたいと思います。

コロナ禍の終息は期待するところですが、今日の学校教育の中での自然体験活動、とりわけ海洋活動は教職員の働き方改革含め機会は減少の一途といえます。

社会教育施設を運営展開する私たちの社会的な意義はますます貴重な業務と言っても過言ではありません。今まで、大人が「出来るわけない！危ないからダメ！」の固定観念で、体験のチャンスを失っていた場面も多かったと思います。現在、浜名湖海洋少年団設立も具現化する中、体験格差解消事業の継続は団の目標の一つとして取り組んで参ります。B&G浜松海洋クラブ実現も目指しております。

皆さまのますますのご指導を宜しくお願いいたします。



有限会社SHIPMAN
代表取締役
城田 守

公益財団法人 身体教育医学研究所

多様な分野の研究と実践を通じ
すべての子どもたちに自然体験を

〒 389-0402
長野県東御市布下 6-1
TEL・FAX 0268-61-6148

❖ 団体概要

身体に関わる様々な事象について、従来の保健・医療・福祉・介護・教育・スポーツ等の幅広い分野から調査研究・分析評価・教育啓発活動を行い、「からだを育む」ことを通じたすべての人々の健康づくりと公共施策づくりに寄与することを目的としている。

❖ 休眠預金事業の協力団体

既存の対象団体

上田女子短期大学
楽育ひろばtomi
東御市（子育て支援課）
東御市教育委員会



この3年間で増えた対象団体

（福）東御市社会福祉協議会
（福）みまき福祉会
（一社）SanyTOMI
佐久大学
長野大学
八重原土地改良区
東御市（福祉課、文化・スポーツ振興課、
子ども家庭支援室）

❖ 活動場所

・芸術むら公園 明神池

農業用ため池を管理組織である八重原土地改良区から特別に利用許可を受けて本事業で利用している。（一般利用禁止）

・四季の森



❖ 休眠預金事業の主なプログラム

- 子ども誰でも居場所「くるme」（居場所活動）
カヌー・SUP体験、自然体験活動（里山遊び）
- カヌー・SUP体験
 - ・SanyTOMI カヌー体験
 - ・みまきっ子体験クラブ カヌー体験
 - ・里山探検 カヌー体験
 - ・北御牧中学校 カヌー・SUP体験事業（修学旅行代替）
 - ・日本体育大学野外活動実習 カヌー・SUP体験
- 教職員向けカヌー体験会
- B&G 海洋性レクリエーション指導員（リーダー）研修会



❖ 休眠預金による主な対象者の参加人数

	居場所活動		その他活動	
	回数	人数	回数	人数
2020年度	6回	348人	7回	310人
2021年度	8回	502人	11回	327人
2022年度	7回	427人	11回	273人
合計	21回	1277人	29回	910人

❖ 成果

- ・今回の事業を通じて、水辺の体験活動における基盤（器具類含め）が整った。
- ・地域においては農業用ため池を活用することについて前代未聞であったため、今まで眠っていた地域資源を活用したモデル的な取り組みとなった。
- ・地域住民や教職員向けの体験会を実施することで、地域の理解者も徐々に増加した。
- ・主に屋内で実施していた居場所活動「くる me」も、本事業をきっかけに屋外での活動を取り入れたことで、活動の幅が広がり、参加者の開放的な笑顔も見られ、社協担当者も喜ばれた。
- ・地域の福祉団体、大学生、地域ボランティア等と新たな繋がりができた。更に他の活動へも波及した。

❖ 特記事項

- ・コロナ禍の影響で屋外での活動が着目され、居場所活動の他に修学旅行の代替事業や大学の実習の受け入れなど、当初の想定以外の取り組みが実施できた。
- ・地域の特性上、今回の事業で初めてカヌー・SUPの体験をしたお子さん・保護者がほとんどであったが、B&G 財団のご協力もいただきながら大きな事故も無く事業が行えた。
- ・居場所活動「くる me」は約4年半の間、月1回休日の昼間の活動を実施してきたが、参加者の更なるニーズに答えるために、2022年8月より週1回のペースで平日夕方に新たな活動を開始した。（くる me ぶらす）



➤ 自己評価と総評 まとめ

まずこの3年間はコロナ禍での事業実施となったが、社会情勢等も考慮しながら当初の目標に近い形で事業を遂行できた。特に本事業においては、これまで地域になかった水辺のアクティビティの実践や地域資源の活用等、地域にとっても大きな一歩となったと考える。また居場所活動においては、多様な立場の方に参画いただき、スタッフや参加者等の垣根を超えて、協力し合いながら活動の運営ができた。今後の事業の継続にあたっては、運営資金の確保・艇庫の建設が急務であると考えている。



身体教育医学研究所
代表理事 田丸 基廣



認定 NPO 法人 オーシャンファミリー

みんなの海 project

～地域のすべての子に海での楽しい体験を～

〒 240-0116
神奈川県三浦郡葉山町下山
口 1741
TEL 046-876-2287
FAX 046-876-2297

❖ 団体概要

「海で子供を元気に、元気になった子供が海を元気に」というビジョンを掲げ、「海は面白くて楽しい、海はすばらしい、そして海は大切だ」を合言葉に、次代を担う子供たちを中心に海の世界教育に関する事業を行い、地球環境の保全と、持続可能な社会作りを目的としています。

❖ 活動場所

神奈川県三浦郡葉山町の
「海」および「里山」

海…一色海岸など。生物が豊富な磯場に隣接し、遠浅の砂浜が広がる。
里山…海岸からすぐアクセスできる標高 200m ほどの山や、自団体が管理している竹林や田んぼ、畑。



❖ 休眠預金事業により出来たこと

休眠預金事業の助成を受ける前は接点がなかった、逗子市と横須賀市に事業所を構える放課後等デイサービスの団体が参加団体として、3年間継続して体験会を行うことが出来た。また、葉山町に拠点を置くオルタナティブスクール 2 団体も参加団体として体験会を開催した。

活動に参加した子の保護者の方からは、アンケート調査で次のようなコメントもいただいた。

「海遊びは大好きになりました。幼少期の楽しい記憶は高齢になり、認知症になっても強く残ると聞きます。一生にわたる良い思い出になったのではないのでしょうか。」

「2021 年海遊びの日を（親が）不安な気持ちで迎えた。」

2022 年海遊びの日を（親子共に）楽しみな気持ちで迎えた。この違いが大きいと思います。」

また、参加団体のスタッフの方からは、次のようなコメントをいただいた。

「子供たちの表情。笑顔が素晴らしかった。」

「子供たちが昨年と違い、自立している所や積極的に取り組んでみようとする姿が一番心に残っています。」

❖ 休眠預金事業の主なプログラム

主なプログラムは、次のとおり。

◆通年スクールでの受け入れ

「ニッパーズ」小学生対象、毎週火曜日 16:30～18:00、約 20 人

「葉山キッズ school」小学生対象、毎週金曜日 16:30～18:00、約 20 人

「マリンキッズ」小学生対象、毎月第三土曜日 9:30～15:00、約 20 人

「ファミリー教室」ファミリー対象、毎月第二土曜日 9:30～15:00、約 30 人

◆体験会の開催

団体：「スタジオみらい」、「ヒミツキチ森学園」、「telacoya 旅する小学校」

個人：個人からの申込も受け付けて実施しました。

◆勉強会の開催

「海遊びのユニバーサルデザイン勉強会」



❖ 休眠預金による主な対象者の参加人数

	放課後等デイサービス		オルタナティブスクール		ひとり親家庭	知的障害児
2020年度	3回	52人	0回	0人	3回	6人
2021年度	3回	60人	3回	40人	25回	14人
2022年度	2回	44人	4回	30人	5回	17人
合計	8回	156人	7回	70人	33回	37人

❖ 成果

体験会に参加した団体が自ら体験の機会を

2021年度に初めて体験会を実施したオルタナティブスクール「ヒミツキチ森学園」が、2022年度に伊豆大島へのスノーケリングツアーを行った。当初から参加団体が自主開催することを目指していたので、とても大きな成果となった。

当事業を対象とした論文が最優秀論文賞を受賞

神奈川大学人間科学部の渡部かなえ教授に、発達障害・知的障害児の体験格差解消事業の意義と成果を検証していただき、その論文が APIAR 学会・OCMAR-2021 教育学分野の最優秀論文賞（Best Paper in Education）を受賞された。



❖ 特記事項

初めての海体験をサポート

個人の方を対象とした体験会に参加した15歳の女の子は、水が大好きでプールにはご家族で行く機会があったものの、移動には車いすが必要なこともあり、海には触れたことがなかった。当事業のことを知って体験会にお申込みいただき、資金分配団体のB&G財団よりお借りした水陸両用車いすに乗って初めての海を体験していただいた。御祖父様と御祖母様もその様子を砂浜から見守られ、お母様は初めて乗られるというSUPを楽しんでいただいた。翌年には、お姉様がボランティアスタッフとして他の参加者のサポートをしていただいた。

⇒ 自己評価と総評 まとめ

3年間の事業を通して、多くの子供たちに海の楽しさ素晴らしさを体験してもらうことが出来た。また、保護者の方や、参加団体スタッフの方、ボランティアとして関わっていただいた方にも、自然体験の素晴らしさを改めて感じてもらうことが出来た。申請時に中長期アウトカムとして設定した、当事業を通じて海の楽しさ素晴らしさを感じた子供たちがこの地球環境を守る次世代として育ていくために、今後も継続して体験格差解消のための取り組みを続けていくことが重要だと認識している。共に活動団体として3年間取り組んできた団体はもちろん、同じ想いを持つ他の団体とも連携して、多くの人が自然と触れる体験の機会を増やしていけるよう、共に取り組んでいきたい。

資金分配団体のB&G財団には、伴走者として色々な面でこの3年間サポートしていただき、大変感謝している。また、公益財団法人身体教育医学研究所など他の実行団体との交流の機会を作っていただいたことも、事業を行う上で大きな励みとなった。



オーシャンファミリー
代表 海野 義明

⇒ 外部評価

外部評価者の活動への参与観察と保護者およびボランティアリーダーへのアンケート調査結果から検証した、3年間の活動で得られた多くの成果の中で特筆すべき成果は、活動を楽しむためにも経験が必要で、経験がないと、緊張や不安で、のびのび元気に活動を楽しむことができない。障害のために体験の機会が少なかった子供たちは、3年間何度も参加し、楽しかった経験を積み重ねていくことで、「楽しめる」ようになっていき、より楽しむために「チャレンジ」することで、自ら経験値をさらに高めていくことができるようになった、という点であった。

また、帰宅後に日記に書いたり、親や兄弟に話すなど、活動が終わったらそれでお終いではなく、楽しかった思い出を忘れないように記録に残したり、他者と共有したりするようになっていったのも、重要な成果であった。人やグループのつながりを作ってお互いに助け合い協力し合って活動を行うという動きが出てきたことは、大きな成果であった。



神奈川大学
教授 渡部 かなえ

認定 NPO 法人 Ocean's Love

知的障がい児・発達障がい児の サーフィン体験

〒 253-0054
神奈川県茅ヶ崎市東海岸南
4-11-47
パインヒルズ 101 号
TEL・FAX 0467-95-1485

❖ 団体概要

『海から陸へのノーマライゼーションの社会づくり』をミッションとして掲げ、知的障がい児・発達障がい児を対象としたサーフィン体験教室を 2005 年より神奈川県で開催。これまで全国 13 カ所で開催し、延べ約 2,000 人の児童、約 8,000 人のボランティアが参加している。

❖ 活動場所

神奈川県茅ヶ崎市
「ヘッドランドビーチ」
えぼし岩を望む、多くのサーファーが集まる茅ヶ崎有数のサーフスポット。



❖ 休眠預金事業により出来たこと

子供たちが海を楽しみ、仲間やボランティアさんと交流できる環境をコロナ禍でも止めることなく作りつづけることが出来た。また、他県の障がい児支援団体からも見学にお越しいただき、本事業の活動や終了後の継続事業に関して共有し、海での体験活動の今後の広がりが期待出来るものになった。

参加保護者の感想

コロナ禍でのイベントで普段より気を使い沢山の注意をはらっていただき大変だったと思います。おかげ様で安心して参加させていただきました。とても感謝いたします。イベントではボランティアさんにはとても親切に優しくしてもらい娘は楽しみすぎていました。『どれも楽しすぎて最高だったー!!』そうです。そしてなにより嬉しかったことは参加者の女の子のお友達が 2 人も出来た事だそうです。こんな素敵なイベント、素敵な出会い温かな気持ちを与えていただき感謝しかありません。またの機会がございましたらよろしく願いたします。

参加ボランティアの感想

ボランティアに参加させていただき、初めは参加できなかったお子さんも、スタッフさんやボランティアの皆さんが何度も温かく接してあげると段々と一生懸命トライし、最後には笑顔になっている姿を見て毎回感動しています。障がいがある方々にこんな風に接してくれる人がもっともっと増えたら良いなと心から思っています。

❖ 休眠預金事業の主なプログラム

①サーフィン体験スクール

約 1 時間で陸上での練習から実際に海に入っのサーフィンを体験できるプログラム。ボランティアさんのサポートのもとで安心して海を楽しめます。

②ビーチトレーニング

ビーチで海を感じつつ、楽しみながら参加できるトレーニングイベント。サーフィンの動きを取り入れたダンスや、他の参加者と協力して行うプログラムを行います。

③オンラインサーフトレーニング

サーフィンの動きを取り入れたトレーニングやゲームをオンラインで行うプログラム。全国の友だちと繋がるのもオンラインならではの。



❖ 休眠預金による主な対象者の参加人数

	対象児童	保護者	ボランティア
2020年度	39人	50人	70人
2021年度	37人	52人	64人
2022年度	69人	92人	103人
合計	145人	194人	237人



❖ 成果

100名以上の子供たちに海での体験活動に参加してもらい、初めて海に入るお子さん、初めてサーフィンをするお子さん、海での活動への経験は様々ですが、それぞれのペースで楽しんでもらいました。

保護者の方へのアンケートでは、90%以上の方に、「サーフィンにチャレンジすること自体や、お子さんとボランティアさんとの交流がお子さんの社会性の向上につながっている」と回答いただいています。

また、参加者全員の方に「今後も Ocean's Love のサーフィンスクールに参加したい」と回答いただき、継続的な参加意欲を得ています。

❖ 特記事項

特に2020年度は、コロナ禍で活動が制限されるなか、「プールに行くことも出来ず水辺の活動に全く参加できなかった」、「学校以外に交流する機会がなかった」という声をいただいた。そのなかで、海だけでなくオンラインやビーチで新しい形式での活動のカたちをつくることのできた。

この経験を活かして、どんな状況下でも、子供たちに笑顔になってもらい、少しでも多くのコミュニケーションが取れる環境をつくることを目指して活動していきます。

➤ 自己評価と総評まとめ

本事業を通じて、私たちが実施してきた海での体験活動が、子供たちにとって楽しみであるとともに、ライフスキルの向上に寄与できるものと確信しました。単発で終わらず、継続的に参加し、より子供たちの成長に繋がれるように、海での活動が体験できる放課後等デイサービスを2021年10月に開設しました。

今後は、より多くのお子さんが体験できるイベントと、継続的に体験することができる放課後等デイサービスとの両軸での事業を展開していきます。

B&G財団には、実際に活動を見学いただいた上でアドバイスをいただいたり、広報のお手伝いもいただきました。

また水辺の安全や環境意識を啓蒙するツールもご提供いただき、子供たちに分かりやすく説明することができました。本事業終了後も同じ想いを持って活動する団体を繋げていただければと思います。



認定NPO法人
Ocean's Love
理事長 鈴木 薫



龍ヶ崎市 B & G 海洋クラブ

障害児やひとり親家庭のための運動支援

〒 300-1223
茨城県牛久市
城中町 469-1

連絡先
TEL 090-2729-5799

❖ 団体概要

牛久沼を舞台に地域の子供たちを対象としたウィンドサーフィンスクールや、牛久沼の清掃・保全維持などを中心に活動している。また、海洋性スポーツ体験の機会が少ない青少年に対しても体験の機会を提供し、主に青少年のコミュニケーション能力の向上と自立心の確立を目的としている。

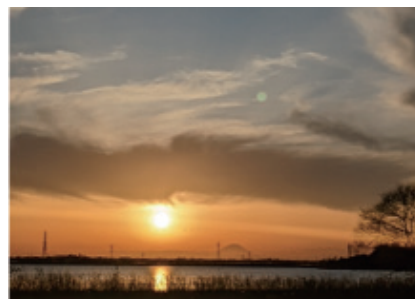
また、知的障害者、引きこもり、生活困窮家庭などを対象に青少年へのスポーツ体験学習やスタンドアップパドルボード（SUP）を利用した清掃活動など実施。

❖ 活動場所

茨城県龍ヶ崎市 牛久沼

水辺を管轄する龍ヶ崎市のほか、牛久市、つくば市、取手市、つくばみらい市の5市に囲まれた6.5km²に及ぶ茨城県南部に位置する広大な牛久沼を活動場所としている。

周囲には美しい自然が多く、キジ、カワウ、カモ、白鳥など水鳥たちの楽園となっている。年間を通して、四季折々の豊かな表情に魅せられた人々が数多くこの地を訪ねる。



❖ 休眠預金事業により出来たこと

近隣市の子供食堂、フリースクール、ボーイスカウト、JCや商工会などに認知され一緒に活動することが出来るようになった。龍ヶ崎市内のSAPLAショッピングセンターや同市内の市民活動センターフェスなどにも移動出店ができ、活動の幅が広がり、幅広く牛久沼や当海洋クラブのPR活動ができたことが大きな前進だった。

当クラブのクラブハウスは、古民家を利用しているが、コロナ渦で事業失注する中、JANPIAの緊急コロナ支援により、敷地内に更衣室や器材置き場を兼ねるプレハブ倉庫を建てることができ、事業を休むことなく実行することができた。

また、休眠預金事業の助成金で作成した広報映像をYouTube等で見ることができ、活動が映像記録として残せたことは当クラブにとり活動支援ツールとして非常に大きな財産となった。

子供たちは、SUPをスポーツとして利用する事に留まらず、SUPを使って水面清掃等を行い、楽しみながら環境問題を学び、実際にその環境に触れる機会ができた。また、休眠預金の助成金により活動器材も増えたことで、多くの方にボランティア活動に参加していただく機会が増えた。

❖ 休眠預金事業の主なプログラム

- ・プラスチックパトロール（SUPを使った水面清掃・海ごみ絵本を学ぶ）
- ・草刈り隊（ごみ拾い、クローバー種まき、草刈り等の環境保全活動）
- ・SDGs カヤックペイント（再利用したカヤックにペイントし乗船する）
- ・ウインドサーフィン少年団（海洋クラブ会員のウインドサーフィンスクール）

✦ 休眠預金による主な対象者の参加人数

	知的障害	発達障害	ひとり親家庭	子供食堂	その他	健常児	成人
2020年度	6人	15人	—	25人	—	9人	106人
2021年度	20人	20人	30人	—	—	216人	110人
2022年度	28人	15人	12人	—	15人	330人	106人
合計	54人	50人	42人	25人	15人	555人	322人

✦ 成果

- ・当クラブの家族会員が7組増え、会員数の増加が計られた。
- ・活動参加延べ人数が、年間1300人を超え、過去最大となった。
- ・龍ヶ崎市により牛久沼畔で計画されている道の駅の開発が、建設予定地の軟弱地盤が原因で開発が遅れているが、再び水辺のアクティビティでの水面利用による牛久沼観光資源活用が再燃し、改めて牛久沼が身近で大きな資源であるという認識が生まれた。このことにより休眠預金で活動が活発になった当クラブの活動にもより大きなスポットがあたり、龍ヶ崎市内でのPR活動が行いやすくなった。



✦ 特記事項

- ・(公社)スポーツ健康産業団体連合会と(一社)日本スポーツツーリズム推進機構が共催するスポーツ振興賞(スポーツや障がい者スポーツを通じて健康づくりを推進し、ツーリズムや産業振興、地域振興に大きく貢献した団体、企業等を顕彰する)の第10回スポーツ振興賞に休眠預金事業を中心とした活動内容で申請し、スポーツ健康産業団体連合会「会長賞」を2022年6月に受賞した。
- ・B&G財団の事業実施をきっかけとして、市民活動センターに出入りする活動団体と交流を深めることができたことで、市内での普及活動にもなり、休眠預金活動と合わせて当クラブの水辺の体験活動の活性化につながった。

➤ 自己評価と総評 まとめ

休眠預金事業により当海洋クラブの活動が活発になったことで、牛久沼という地域資源活用にも地域の人が目を向けるきっかけとなり、進展のなかった行政による道の駅計画も改めて動き出す原動力になったと自負している。牛久沼での余暇活動を自ら行う雰囲気を含め、来年度以降も更に活発に活動を続けていきたい。



龍ヶ崎市B&G海洋クラブ
代表
海老原 徹

休眠預金事業を含めB&G財団の教育資材を豊富にそろえ、参加者への配布や学習の機会を生むことで、財団の後方支援を大きくいただいた。また、ごみゼロフェスティバルなどの水辺清掃にも子供たちが参加を楽しみにしてくれているので継続していきたい。

➤ 外部評価

龍ヶ崎市 B&G 海洋クラブの活動は、団体の目的やビジョンに則り、精力的に活動している。また、休眠預金助成金のおかげで準備や安全確認のために、十分なスタッフ数を確保することができていた。休眠預金で建設したプレハブ倉庫の設置場所も良く、スムーズにSUPの活動場所まで移動することができた。休眠預金助成金を活用したプラスチックパトロール事業については、SUPの楽しさと環境美化の重要性の両方を一度に感じることができ、優れたイベントとなっている。



総合型地域スポーツクラブ
(一社)スポーツ
プロモーションいばらき
理事
土井畑 幸一郎

ただ、アウトドアスポーツのため、どうしても天候等の環境に活動が左右されてしまうことが課題であると感じている。特に、風が強い日でも楽しめるプログラムがあれば、より充実した運動の体験ができると思われるので、プレハブ倉庫を更に活用して、倉庫内での活動プログラムを作っていくことが今後の課題解決の一つの方法である。

宮城県障がい者 カヌー協会

カヌーを通じての共生社会、
インクルーシブの実現を目指す事業

〒 982-0003
宮城県仙台市太白区郡山
5-19-15
スミールステッド就労支援
事業所内
TEL 022-246-9006
FAX 022-246-9029

団体概要

障がい者カヌーを通じて「障がい者スポーツ」の普及、技術の向上を図るとともに、健常・障がいの障壁を無くした共生社会やインクルーシブ教育の推進を目指すことを目的としている。

副代表自らが「パラカヌー」競技を現在も行っており、広くカヌー体験機会の提供から、余暇活動としての体験、そして、最終的にはパラアスリート等の育成まで、一貫した流れとそれぞれの障がい者の希望・状況に合わせた活動を目指す。

活動場所

- ①加美町中新田 B&G 海洋センター
- ②仙台市若林区緑地公園
- ③亘理町 B&G 海洋センター
- ④仙台市海岸公園



休眠預金事業の協働団体

既存の対象団体

- ・加美町
- ・仙台市社会福祉協議会
- ・仙台市障害者福祉協会



この3年間で増えた対象団体

- ・宮城県
- ・宮城県障害者スポーツ協会
- ・宮城県／仙台市手をつなぐ育成会
- ・一般社団法人MOTTO



休眠預金事業の主なプログラム

- ①温水プールでのカヌー体験会
- ②屋外でのカヌー体験会
- ③スプリントカヌー練習会
- ④県民大会参加



休眠による主な対象者の参加人数

	身体障害	知的障害	発達障害	特別支援 学校・学級	健常児	成人	ボランティア	スタッフ等
2020年度	—	—	19人	—	16人	5人	—	33人
2021年度	7人	17人	—	—	—	—	30人	1人
2022年度	6人	81人	35人	116人	10人	47人	63人	47人
合計	13人	98人	54人	116人	26人	52人	93人	81人

成果

「障害児等の体験格差解消事業」への申請をきっかけにして立ち上げた本会は、障がい児・障がい者に対するカヌーを主体とした幅広い体験や経験の機会の提供と、その後もさらにカヌーを続けたい人たちに対する競技カヌーの道も含めた活動の機会や仲間づくりを継続して提供していくことを目標にしている。

当初は特別支援学校などを通じて一律に体験を提供する計画を立てていたが、状況はコロナ禍によって一転した。その分目先を変えて、連携が可能な団体の発掘や調整に注力した結果、私たちの「仲間づくり」がまず大きく進展し、3年目には活動回数の増加、受け入れ可能人数の増大、活動の活発化や参加者属性の多様化など、計画・想定を大きく超える成果に繋がった。今後の活動継続を考えた時に、「受け入れ先」の拡大ではなく、共に活動できる協力者を得られたことは、団体の足元を固められたという意味で非常に大きいと感じる。

またもう一方の目標である、パラカヌー競技活動を通じた障がいのあるジュニア選手の発掘と育成についても、幸いに2名の児童生徒が継続的な選手活動に取り組んでいる。明確な目標を持ち活動することによる社会性や自立心の向上は、障がいの有無に拘らずに得られるものである。彼らが本会活動のイメージリーダーとなり、さらに多くの障がい児の参加が進むことと期待している。

特記事項

- ① プールでのカヌー活動等をあきらめていた重度心身障がい児が体験したことでリピート参加に繋がった
- ② 体験会から2名の障がい児が競技の練習会に参加し、県民大会へと参加した

保護者・関係者の声

- カヌーは初めてで、プールもかなり久しぶり（コロナ禍で授業が今年度はなかったので）の息子は水が怖くてあまり長い時間乗っていただけでしたが…とても楽しそうな表情だったので、満足していると思います。本人に合わせた対応をしてくださり、嫌がることを無理にさせないでいただけたので、とてもありがたく感じました。
- 障がいの重い子のアクティビティはまだまだ少ないのでありがたいです。

自己評価と総評まとめ

私どもの団体は休眠預金事業によって結成された団体ですが、この事業よっての成果は計り知れないと思っております。それ以前は副代表である我妻が個人的に活動していたもので、備品も私物のカヌー、個々に声をかけた体験、練習も自分のみの状態でした。

事業活動によってイベントとして成り立つカヌーの艇数、ライフジャケット、パドル等の備品が揃い精力的に活動ができ、口コミによって参加者だけではなく、協力団体の増加や個人のボランティアの参加などは事業終了後も継続して活動していける基礎作りになりました。

また、他県では障がい児の競技選手発掘が苦戦している中で、体験会から2名のジュニア選手が生まれて県大会に参加できたことで、将来的にも全国大会参加を目指せる大きな財産となりました。

惜しむべきはコロナによるイベントが出来ない時期でしたが、その間に協力団体を増やせたことが最終年度の実績に繋がったと思います。



宮城県障がい者
カヌー協会
会長 石田 一也

外部評価

障がい児の水辺のスポーツの体験機会が少ない一方で保護者を含めたニーズは高いです。今回の休眠預金事業のご支援によって、団体の設立から始まり器材整備、協力団体やボランティアとの連携なども含め、対象者の受け入れや活動の基盤が

確立した結果、1回の体験会で50名ほどの障がい児や保護者、兄弟を受け入れられる程に運営側のキャパシティを上げることができました。アンケートによる保護者の満足度も高く、このような機会提供を絶やさず続けて行く事が「障壁のない共生社会」に繋がっていくものと思います。



(公社)日本カヌー連盟
パラカヌー強化委員会
副委員長 本田 泉

成果報告

東北大学 加齢医学研究所 教授 医師・医学博士 瀧 靖之

東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター 副センター長
東北大学加齢医学研究所教授
東北大学発スタートアップ 株式会社 CogSmart 代表取締役
医師 医学博士



東北大学加齢医学研究所及び東北メディカル・メガバンク機構で脳の MRI 画像を用いたデータベースを作成し、脳の発達や加齢のメカニズムを明らかにする研究者として活躍。読影や解析をした脳 MRI は、これまでにのべ約 16 万人に上る。

「脳の発達と加齢に関する脳画像研究」「睡眠と海馬の関係に関する研究」「肥満と脳萎縮の関係に関する研究」など多くの論文を発表している。

著書は、「生涯健康脳（ソレイユ出版）」「賢い子に育てる究極のコツ（文響社）」「回想脳（青春出版社）」「脳医学の先生、頭が良くなる科学的な方法を教えてください（日経 BP）」始め多数、特に「生涯健康脳」「賢い子に育てる究極のコツ」は共に 10 万部を突破するベストセラーとなり、海外でも複数カ国語で翻訳本が出版されている。テレビ東京「主治医が見つかる診療所」、NHK「NHK スペシャル」、NHK「あさいち」、TBS「駆け込みドクター！」など、メディア出演も多数。

1. 本研究の概要

本研究において、自然体験が子供および成人に対してどのような影響があるか調査することを目的とした。自然体験の前後にアンケートを実施し、心の状態の変化を定量的に評価および解析したところ、子供において日常的な不安および緊張が軽減され、生活充実感（日常を楽しく過ごすこと）が向上する傾向が見られた。これらの結果は自然体験の先行研究と一致し、自然体験が子供の心理的健康に寄与することが示唆される。

序文

東北大学では、B&G 財団からの依頼により、休眠預金を活用した「障害児等の体験格差解消事業」に参加する子供たち並びに保護者や実行団体スタッフ等の関係者に対するアンケートを実施し、自然体験と心理的健康の関係性について検討した。

目的

障害児やひとり親家庭の子供など対象となる子供と実行団体及び協力団体等の関係者（成人）に対しアンケートを実施することで、心の変容等を分析し、水辺、海などでの自然体験の活動が心理面に及ぼす影響を計ることを目的とした。

2. アンケートの設問設計

各設問は、次のことを調査するための内容となっている。

<子供用>

設問1 児童用自尊感情尺度

評価内容 全般的、学業、身体、社会、家族、の5側面から児童の自尊感情を評価する。

設問2 生き抜く態度尺度

評価内容 先行き不透明な社会を生き抜くために必要とされる自己肯定感、他者肯定感、関係づくり、楽観的思考、将来の展望を評価する。

設問3 学校生活スキル尺度（コミュニケーション）

評価内容 学校生活を円滑に送るために必要とされるコミュニケーション能力を評価する。

設問4 児童用自己効力感尺度

評価内容 学業、友人関係、運動、自己、の4側面から児童の「努力すればできる」と思っている程度を評価する。

設問5 子供用包括的ストレス反応尺度

評価内容 最近1ヶ月間に感じたストレス反応（イライラする、落ち込む、頭痛がするなど）を評価する。

設問6 生活充実感尺度

評価内容 日々を気楽に、充実感を持って過ごせていると感じている程度を評価する。

<成人用>

設問1 主観的幸福感尺度

評価内容 自分自身及び自分の人生を幸せだと認識している程度を評価する。

設問2 Rosenberg 自尊感情尺度

評価内容 自分自身の間人としての価値を認めている程度を評価する。

設問3 ユトレヒトワークエンゲイジメント尺度

評価内容 従業者の仕事に対する熱意の程度を評価する。

設問4 特性的自己効力感尺度

評価内容 ある状況で必要な行動を自分自身が「できる」と思っている程度を評価する。

3. アンケート調査対象

本事業における対象となる子供は次のとおり。

身体障害の児童生徒	知的障害の児童生徒	発達障害の児童生徒
ひとり親家庭の児童生徒	子供食堂に通所する児童生徒	児童養護施設の児童生徒
特別支援学校の児童生徒	その他困難な状況下の児童生徒	一般家庭の児童生徒

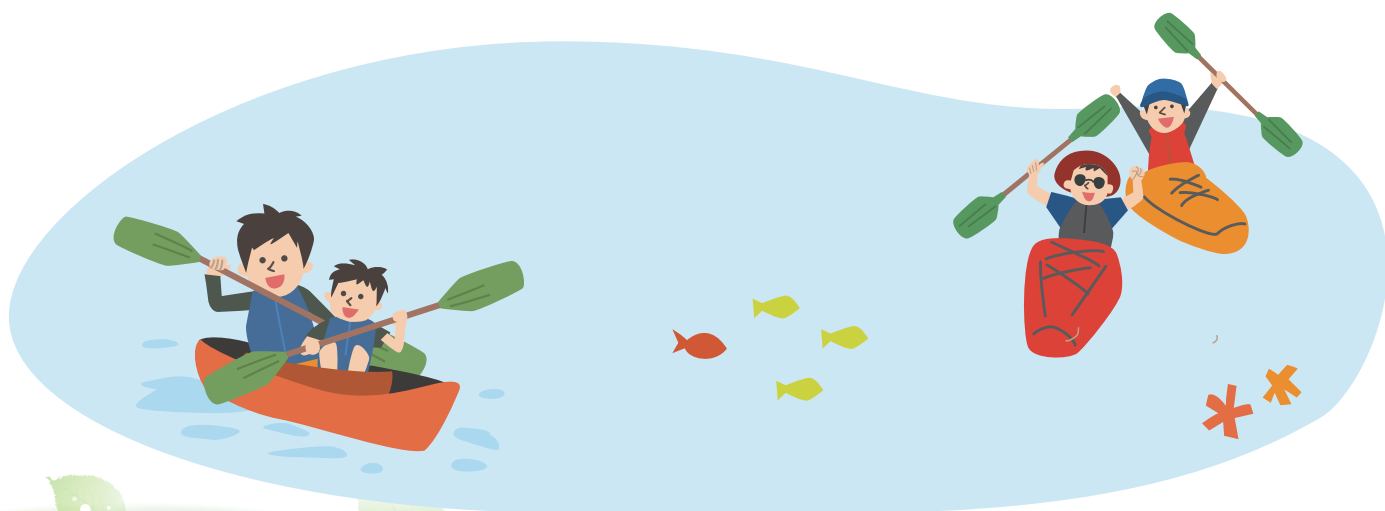
4. アンケート実施方法

アンケート実施については、次のように各実行団体に依頼した。

- ・アンケート対象者には1年間で複数回(2回～6回)の海洋レクリエーション等の体験活動に参加してもらい、アンケートを取ることに。
- ・アンケート対象者にはできる限り3年間にわたり参加を継続していただき、アンケートを取ることに。

※体験前に回答したアンケートを「事前」として扱い、最終体験の際に回答したアンケートを「事後」として扱った(事後アンケートの例:3回体験した場合は3回目の回答、5回体験した場合は5回目の回答)。

※非参加の対象群となる子供のアンケートについては、参加する子供と参加しない子供のいる子供食堂に依頼し、6月を「事前」、10月を「事後」としてアンケートを取っていただいた。ただし、取得部数が少数のため非対象群との比較は難しい。



5. アンケートの集計結果

2020年度から2023年度にかけてのアンケートの回収総数は、次のとおりであった。

●アンケート回収総数

事前アンケート総数		事後アンケート総数	
子供	保護者・関係者等成人	子供	保護者・関係者等成人
463件	455件	306件	574件

●有効回答数

- ・児童の有効回答数：95
- ・成人の有効回答数：107

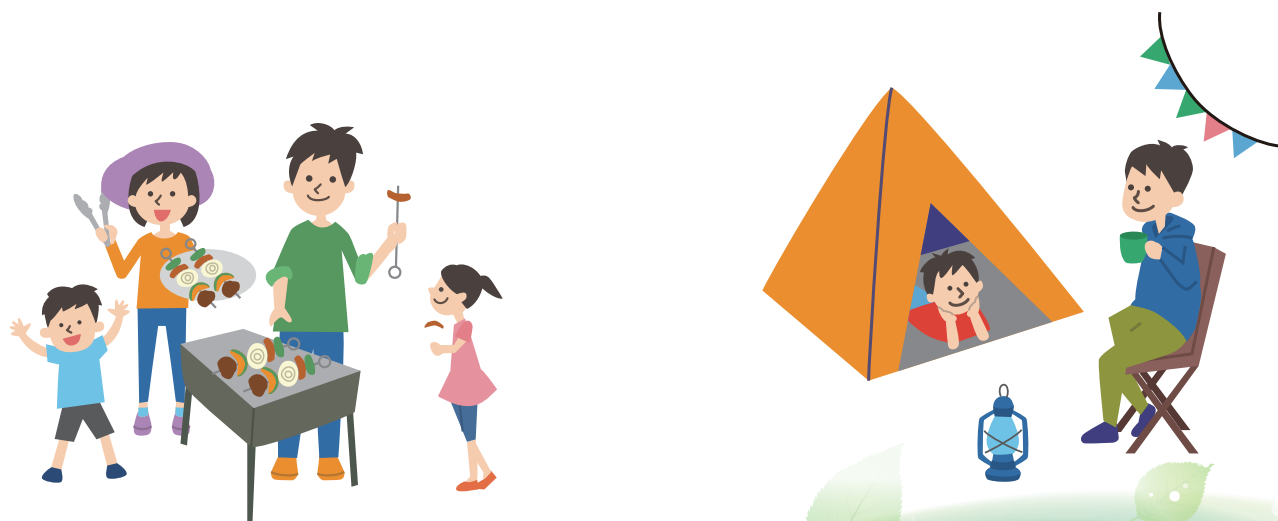
●解析対象

解析対象となる子供において、事前事後回答に欠損のない有効データは95件(男性63名、女性32名)であった。年齢は6～17歳で、平均10.05 ± 2.7歳であった。

解析対象となる成人において、事前事後回答に欠損のない有効データは107件(男性44名、女性63名)であった。年齢は21～73歳で、平均41.96 ± 12.29歳であった。

●分析方法

事前データは体験前の回答を使用し、事後データは最終体験の際の回答を使用した。解析においては、その事前と事後の得点の差分を検出し、事前事後での得点の改善について解析した。解析の際は、ウィルコクソンの順位和検定の手法で、SPSS statisticsのソフトウェアを用いて実施した。



6. アンケートの分析結果

●子供の結果

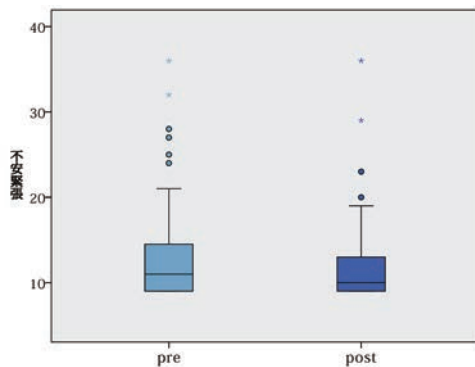
《結果①》

子供の設問5「子供用包括的ストレス反応尺度」において、「不安・緊張」因子の得点が事前から事後にかけて有意に低下した。(得点が低いほど良い)

Z=-2.319, p=0.020

事前 (pre) : 最小値=9, 中央値=11, 最大値=36

事後 (post) : 最小値=9, 中央値=10, 最大値=36



※包括的ストレス反応尺度の

「不安・緊張」因子の項目例

(最近30日間の気分について、ぜんぜんそう思わない～とてもそう思うの4段階の回答により、次の項目例があげられる。)

- ・前よりも、不安になる
- ・前よりも、びくびくしている
- ・前よりも、さみしく感じる

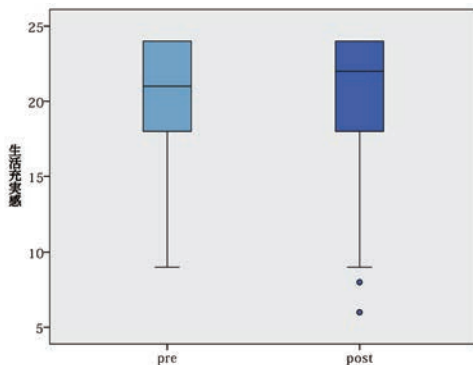
《結果②》

子供の設問6「生活充実感尺度」において、事前から事後にかけて向上する傾向があった。(得点が高いほどよい)

Z=1.760, p=0.078

事前 (pre) : 最小値=9, 中央値=21, 最大値=24

事後 (post) : 最小値=6, 中央値=22, 最大値=24



※生活充実感尺度の項目例

(現在の自分に当てはまるかどうかについて、全く当てはまらない～ぴったり当てはまるの4段階の回答により、次の項目例があげられる)

- ・生活がすごく楽しいと感じる
- ・自分のはのびのびと生きていると感じる
- ・自分の好きなことがやれていると感じる

《その他の結果》

子供においては、上記以外の設問1~4について有意に改善した結果は見られなかった。

●成人の結果

成人においては、設問の1から4の何れも有意に改善した結果の項目はなかった。

7. 考察・まとめ

<児童期の自然体験と心理的健康>

今回の研究において、子供が自然体験することで日常的な不安感や緊張が有意に低下したことが明らかになった。この結果は、児童期における自然体験（お米、野菜などの植物栽培をする自然塾の活動）が、その後高校生、大学生になったときの不安や緊張を低下させたという先行研究の結果と一致する（山本、2017）。また、今回の研究によって生活充実度が向上する傾向が見られたが、これは中学生を対象としたキャンプの自然体験活動後に、学校生活の充実度が増加したという先行研究の結果とも一致する（小谷、2016）。さらに、子供のころの自然体験が豊富な大人ほど、やる気や生きがいを持ち、学歴が高く収入が多いことが報告されており、児童期の自然体験が重要であることが示唆されている（独立行政法人国立青少年教育振興機構、2010）。

<今後の展望>

先行研究において、「主動的」および「能動的」に自然体験活動したことにより、社会的スキル（問題解決、トラブル処理、会話）が高くなったことが推察されている（山本、2017）。一方で自然体験によって、なぜ不安感や緊張が低下するのかは明らかになっていない。自然体験活動の中でもどのような要素が心理的健康に影響を及ぼすのか将来的に検討していくことで、それぞれの子供の状態に合った、効果の高い自然体験プログラムの開発に寄与できる可能性がある。今後、教育現場等における自然体験活動の質の向上と機会拡充のためのエビデンスが求められる。

<本研究の限界>

今回の収集データにおいて、欠損データがあり最終的に解析に使用できるデータ数が少なくなったこと、またその中でも対照群のデータ数が少なく、介入群のみのデータを用いて分析したため、一定のバイアスがかかった可能性が考えられる。

8. 総括

3年間にわたる本事業により、児童期における海洋レクリエーションをはじめとする自然体験活動がキャンプや農業などの自然体験と同様に、子供の心理面に与える重要性が示唆された。研究結果だけでなく、実際に本事業を視察した際も、当初表情が硬かったり海に入ることを恐れていた子供たちも、暫くすると活動そのものを心から楽しんでいる様子を目の当たりにして、本事業が一人一人の子供たちの心理面を大きく改善している実感を得ることができた。前述したとおり、自然体験活動の中でも“どのような要素”が心理的健康に影響を及ぼすのか将来的に検討していくことが、それぞれの子供の状態に合った効果の高い自然体験プログラムの開発に寄与できる可能性もある。日本の将来を見据えて B&G 財団においては、今後も青少年の自然体験活動を推進していただくとともに、機会を見て、例えば多動性障害の子供に合う自然体験活動など、子供の状態に合った自然体験プログラムの開発にも着手していただきたいと願います。本研究の結びとする。



実行団体

- ① 特定非営利活動法人あそびとまなび研究所
- ② NPO 法人
コバルトブルー下関ライフセービングクラブ
- ③ 株式会社 F E E L
- ④ 特定非営利活動法人 海の達人
- ⑤ 有限会社 SHIPMAN
- ⑥ 公益財団法人 身体教育医学研究所
- ⑦ 認定 NPO 法人 オーシャンファミリー
- ⑧ 認定 NPO 法人 Ocean's Love
- ⑨ 龍ヶ崎市 B&G 海洋クラブ
- ⑩ 宮城県障がい者カヌー協会



ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

B&G 財団は設立以来「青少年の健全育成」を基本理念として、全国にある海洋センター・クラブと連携し、様々な事業を行っています。



公益財団法人

ブルーシー・アンド・グリーンランド財団 (B&G 財団)

〒105-8480 東京都港区虎ノ門 3-4-10 虎ノ門 35 森ビル 9F

Tel. 03-6402-5310 (代表) Fax. 03-6402-5315

<https://www.bgf.or.jp>

